

令和4年度(令和3年度対象)

教育委員会の点検・評価報告書

令和4年9月

養父市教育委員会

目 次

はじめに	P 2～3
教育委員会の点検・評価について	P 4～6
1 趣旨	
2 対象	
3 点検・評価の方法	
4 学識経験者の活用	
養父市教育委員会の令和4年度（令和3年度対象）点検・評価について （総括意見）	P 7～11
令和4年度（令和3年度対象）養父市教育委員会評価調書	P 12～23
教育総務課	
・教育課題の把握と提言を行い、教育行政の推進を図る	
・子どもたちの学びを支える環境の充実	
こども育成課	
・発達や学びの連続性を踏まえた乳幼児教育の充実を図る	
・多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培う	
・子どもを安心して育てられる環境づくりを進める	
学校教育課	
・「生きる力」を育む教育を推進する	
・子どもたちの学びを支える環境を充実する	
学校給食センター	
・「生きる力」を育む教育を推進する	
社会教育課	
・市民の学習ニーズに応える社会教育を進める	
・こころ豊かな青少年の育成を進める	
・ふるさとの文化財を継承し、その保存と活用を進める	
生涯スポーツセンター	
・スポーツ環境づくりとスポーツ活動・健康づくりの推進	

はじめに

本市では、「養父市教育大綱」等を踏まえて策定された「第3期 養父市教育振興基本計画」に基づき、「令和3年度 教育推進の重点」において、乳幼児教育、学校教育、社会教育の各分野で重点目標を掲げ、保護者や地域の皆様のご理解やご協力をいただきながら引き続き「0歳からの一貫した教育環境づくり」の実現に向けた諸施策とともに、本市の特色ある教育を推進しました。

乳幼児教育では、乳幼児期の教育・保育は、すべての子どもが人間としてよりよく生きるための基礎を獲得するとともに、心身ともに健やかに成長する上で重要な役割を担っているととらえ、子ども一人一人の発達の特徴を理解し、基本的な生活習慣の確立に努め、豊かな心情や物事に自ら取り組もうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度、さらに運動遊び等を通じた体づくりなど、家庭や地域と連携して「生きる力」の基礎を育む質の高い教育・保育に取り組みました。また、乳幼児特有の事情を考慮しながら、「新しい生活様式」を導入し、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りました。また、令和元年度に策定した「第2期 養父市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、引き続き子育て支援施策の充実を図り、「日本一子育てをしやすいまち」の実現に向け、子どもを安心して育てられる環境づくりを進めました。

学校教育では、新型コロナウイルス感染症について、基本的な感染症対策を行う「新しい生活様式」を導入し、感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減しつつ、子どもたちの心のケア等に配慮し、教育活動を行いました。また、小中一貫教育や、「そうあんくんの日」（子どもたちが、読書、家事、自主学習など自ら課題を見つけ、自主的・自律的な生活を送り「生きる力」を育む日）の取組等、これまでの本市の教育実践とポストコロナ社会におけるICTの活用等新たな方法との融合を図ることにより、教育活動の一層の充実を目指しました。

学校給食については、成長期の子どもたちの健康の保持増進、心身の発達と望ましい食習慣の形成を図るため、食に関する指導の充実と、衛生管理を徹底して安心・安全な給食の提供に努めました。

教育環境の整備については、ICTを活用した新しい教育への取組、豊かな学びを支援するとともに、学校施設における必要な維持修繕を実施し、適切な教育環境の充実に努めました。

社会教育では、市民が学び続ける生涯学習社会の形成に向け、公民館、地域局をはじめ、社会教育施設やスポーツ施設、記念館等が連携し、「生きる力」を生涯学ぶまちづくりを進めました。安心・安全を第一に、全てにおいて感染症予防対策等を講じて新しい生活様式を徹底し、市民一人一人がこころ豊かに生きられる環境を整備することで、市民の自発的な学習や活動を通じて養父市の文化を次代につなぎ、新たな文化の創造を支援しました。また、ふるさとの文化財を市民と共に保存継承することや、「元気な養父市」の実現をめざした生涯スポーツの振興なども併せ、養父市全体で「社会教育」を基盤とした「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を展開しました。

このたび取りまとめた「令和4年度 教育委員会の点検・評価報告書」は、令和3年度中に養父市教育委員会が取り組んだ主な施策・事業について、点検・評価を行ったものです。この点検・評価の実施と公表により、広く市民の皆様にご覧いただき教育委員会の活動状況や教育施策の実施状況をお知らせするとともに、「第3期 養父市教育振興基本計画」の基本理念である「「生きる力」を生涯学ぶまち」の実現に向け、より効果的で具体的な教育施策の推進に努める所存です。

養父市教育委員会

教育委員会の点検・評価について

養父市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民への説明責任を果たすため、令和3年度事務事業の点検及び評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに、これを公表するものです。

※参考

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 趣旨

教育委員会が、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、課題や対応方法を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進に資するものです。

点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たしていきます。

2 対象

点検・評価は、養父市教育委員会の「令和3年度教育推進の重点」の重点課題を基に、教育総務2項目、乳幼児教育3項目、学校教育2項目、学校給食センター1項目、社会教育3項目、生涯スポーツセンター1項目を対象といたしました。

(教育総務)

- (1) 教育課題の把握と提言を行い、教育行政を推進する
- (2) 子どもたちの学びを支える環境の充実

(乳幼児教育)

- (1) 発達や学びの連続性を踏まえた乳幼児教育の充実を図る
- (2) 多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培う
- (3) 子どもを安心して育てられる環境づくりを進める

(学校教育)

- (1) 「生きる力」を育む教育を推進する
- (2) 子どもたちの学びを支える環境を充実する

(学校給食センター)

- (1) 「生きる力」を育む教育を推進する

(社会教育)

- (1) 市民の学習ニーズに応える社会教育を進める
- (2) こころ豊かな青少年の育成を進める
- (3) ふるさとの文化財を継承し、その保存と活用を進める

(生涯スポーツセンター)

- (1) スポーツ環境づくりとスポーツ活動・健康づくりの推進

3 点検・評価の方法

(1) 評価項目 (目標)

上記の重点課題ごとの具体的な方策について評価項目にしています。

(2) 取組内容

項目ごとに実施した主な取組内容を示しています。

(3) 達成状況

A 目標が達成できた B 目標が概ね達成できた

C 目標が余り達成できなかった D 目標が達成できなかった の4段階で
評価しています。

(4) 担当課評価

担当課の評価・課題・改善の方策について示しています。

(5) 内部評価

自己点検・評価委員会で行った事務事業の点検・評価、達成状況の評価を示しています。

(6) 外部評価

外部評価委員会で行った検証・評価の意見及び達成状況の評価を示しています。

4 学識経験者の活用

点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることにより、客観性を確保するものであり、養父市教育委員会外部評価委員会規則に基づき、5名の委員の方々から様々なご意見とご指導をいただきました。

(1) 養父市教育委員会外部評価委員会委員

役職名	氏名
委員長	宮下章
副委員長	前田日出子
委員	森本久美子
委員	佐谷真理
委員	三宅功典

(2) 養父市教育委員会外部評価委員会開催日

- ・ 第1回 令和4年7月13日
- ・ 第2回 令和4年7月25日
- ・ 第3回 令和4年8月24日

養父市教育委員会の令和4年度（令和3年度対象）点検・評価について

総括

養父市教育委員会の令和4年度（令和3年度対象）の評価は、自己点検・評価委員会における評価では、33事業のうちA評価が12事業、B評価が18事業、C評価が2事業、評価なしが1事業でした。外部評価委員会においてはA評価を15事業、B評価を15事業、C評価を2事業、評価なしを1事業といたしました。

養父市教育推進の重点に基づいた評価項目（目標）について、各部局からの成果・達成状況・改善の方策等の説明をお聞きした後、外部評価委員会での質疑等を経て評価を実施いたしました。令和2年度の評価から1年がたち、課題となっていたことが改善されている様子も見られ、養父市のあふれるエネルギーを感じることができました。令和3年度においても引き続き新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、計画どおりに実施できない事業も多い状況ではありますが、with コロナを前提とした新しい学校生活「学校ニューノーマル」や感染症に対応した各種事業のあり方を模索し、作り上げる機会としていただきたいと思います。

I 教育総務課の分野について

- ・教育委員会の会議運営については、事前協議の時間を延長するなど、会議の合理的な運営や内容の充実、活発な意見交換を大切にされている様子がうかがえます。教育行政の更なる推進に取り組む強い姿勢が感じられました。

- ・情報発信について、コロナ禍での学校の登校停止などの対応は、学校からだけでなく、教育委員会からもスピード感をもって積極的に保護者への情報提供をしていただきたいと思います。そうすることで更なる感染症予防につながり、いざという時の対応や事前の準備ができるのではないかと考えます。教育委員会広報の発行については、市の広報との兼ね合いも考慮して、市民の求める情報を見極めた上で、定期的に発行していただきたいと思います。

- ・学校施設の老朽化が今後更に進むことを想定し、計画的に適切な維持・管理を心がけていただくよう一層の努力をお願いします。

- ・若者未来応援奨学金制度については、必要とされている家庭もあると思いま

すが、応募者は減少傾向にあります。今一度ニーズの把握や、制度の内容、また継続についても検討が必要かと思われます。

II こども育成課の分野について

・発達や学びの連続性を踏まえた乳幼児教育の充実については、研修時間を確保しながら様々な取組がなされ、子どもを安心して預けられる環境づくりが充実しています。乳幼児の健康管理についてはコロナ禍の中での苦労も多いと思いますが、今後も家庭との連携を密にしながら進めていただきたいと思います。

・コロナ禍で活動が制限される中ではありますが、小学校・義務教育学校への円滑な接続のため、方法や内容を工夫しながら学校としっかりと連携していただきたいと思います。

・こども園・保育所に対応するための管理栄養士が新たに配置され、市内で統一したアレルギー対応マニュアルの見直しをされるなど、食の安全を確保するための取組が積極的に実施されています。大切な食習慣を育てる時期でもあるので、保護者に向けた食育についての情報発信も継続して行っていただきたいと思います。

・子育て世帯への経済的・精神的負担の軽減対策については、「子育てをしやすいまち」として多種多様な支援がしっかりと行われています。子育て世帯の定住のための各種施策についても、関係機関と連携して検討していただければと思います。

III 学校教育課の分野について

・地域とともにある学校づくりについては、コミュニティ・スクールの取組や部活動のあり方についての検討が進められています。少子化が進展する中で様々な課題があると思いますが、学校が主体であることを根底に置き、指導方針を明確にした上で推進していただきたいと思います。

・新型コロナウイルス感染症対策による登校停止等はありませんでしたが、このことがオンライン学習の取組を大きく進展させる機会となり、感染防止をしながら学びを止めることなく進めることができます。今後はオンライン学習を気象警報

時の休校の際にも活用できるように検討していただきたいと思います。

- ・いじめ、不登校の防止に向けた取組については、未然防止や早期発見、支援の充実など様々な対応がなされていますが、依然として無くなることはない社会問題と言えます。予防策に一層の力を入れていただきたいです。子どもや保護者が困ったときや悩んだときに、気軽に相談できる場所や人が身近にいることが大きな力になるので、スクールソーシャルワーカーの増員配置などの環境づくりをお願いします。併せて、子どもたちの「相談する力」の育成も必要だと考えます。

また、多様な子どもたち一人一人に学びの場をつくり、夢をもって生活できる環境づくりも進めていただきたいです。

- ・スクール・サポート・スタッフや、GIGA スクールサポーターなどの人的配置により、コロナ禍での教育活動や ICT 業務に係る教職員の負担軽減が効果的に図られています。

IV 学校給食センターについて

- ・ケーブルテレビを活用した調理番組の制作等により、地域にも食の情報が発信されることで地域の食育の意識の向上にもつながっています。子どもたちは毎日のおいしくて楽しい多彩な給食の提供により、体だけでなく心も育っていると感じられます。コロナ禍でも食育指導や但農給食などの学校給食を活用した意識啓発等、多くの取組が以前と同様に積極的に進められています。

- ・新型コロナウイルス感染症対策と合わせて、特に衛生管理の徹底が求められる中ではありますが、今後も万が一の事故が無いよう、一層の衛生管理、安全管理を推進していただくようお願いいたします。

V 社会教育課の分野について

- ・コロナ禍により、PTCA地域フォーラムや子ども会主催のドッジボール大会など様々な行事が中止となりましたが、PTCA地域フォーラムのネットでの動画配信やケーブルテレビでの配信は、地域に向けた情報発信の良い機会となっています。子ども会でも、ドッジボール大会に代わる事業を積極的に実施するなど、

新たな交流の機会が創出されている様子うかがえました。

・新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていた令和3年成人式と令和4年成人式を、徹底した感染症対策を行いながらクラスター等の発生もなく無事に遂行できたことは、担当課の大変な努力が感じられます。デジタルを活用した生配信などの時代のニーズに合った取組についても、今後も継続して取り組んでいきたいです。

・文化財については、名草神社の7年に渡る本殿・拝殿の工事が計画どおりに完了し、養父市の素晴らしい文化財が鮮やかによみがえっています。このことを歴史や文化の充実感を味わう機会として、市民が集える場所となるような取組をお願いしたいです。

VI 生涯スポーツセンターについて

・各種イベントの開催については新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、昨年度に続いて多くが中止となりましたが、各種スポーツ教室は感染症対策を講じながら実施されており、**with** コロナでの事業実施の体制が構築されてきている様子うかがえます。

・体育施設の管理運営については、指定管理施設では定期的な運営協議会を開催するなど、適正に行われています。体育協会やスポーツクラブ21の活動実績や運営実態を把握し、再編や運営方法の検討についても進めていきたいと思っています。

おわりに

令和3年度は、with コロナの社会に向けて、様々な分野で取組を模索する1年となりました。学校教育では小規模特認校の複式学級解消、義務教育学校では連携した教育が展開され、市内全校でICTを活用した教育が定着していることの報告を受けました。タブレットを活用した新しい教育実践を発信することで、地域にも新たな活力を提供していただければ幸いです。

さて、人口減少や少子高齢化の進展により、近隣の地域でも学校統合に向けての取組が進められているのが現状です。養父市でも、平成16年に統合した現関宮学園や平成18年に統合した現大屋小学校の児童数が、十数年が経過した現在では大幅に減少しています。部活動の現状を考えると、今後部活動のあり方をどのように進めていくのかが大きな課題でもあります。早急に人口減少に対応した学校のあり方についての検討が望まれます。

養父市が掲げる「0歳からの一貫した教育環境づくり」が、子どもたちの「生きる力」として定着しますよう、特色あるコミュニティ・スクールの推進を図りながら、地域と共に学校づくりを進めていただくことを期待しています。

最後に、新型コロナウイルス感染症対策やデジタル施策の推進などにより、私たちを取り巻く環境が大きく変わりつつある昨今ですが、そのような中、教育の果たす役割の重要性はますます高まることが予想されます。教育委員会と保護者や地域住民が連携・協働し、養父市の目指す「生きる力」を生涯学ぶための「まちづくり」また「人づくり」を進めていただきますようお願いいたします。

養父市教育委員会外部評価委員会

令和3年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	教育課題の把握と提言を行い教育行政の推進を図る
-------	-------------------------

2 評価項目(目標設定)

評価項目(目標)	取組内容
1 教育委員会の会議運営	①原則として月1回の定例会議、また必要に応じて臨時会議を開催する。 ②直面する教育課題及び将来の養父市の教育の方向性など意見交換を行う。 ③事務局は審議議案等を精査し、議事進行の調整を図る。
2 教育委員としての活動を積極的に行う	①学校園、教育施設の訪問を行う コロナの状況を鑑み感染症対策を講じながら学校現場、施設の現状を把握し教育向上のための意見や指導助言を行う。 ②総合教育会議に出席し直面する教育課題について首長部局と協議、相互連携を図る。
3 市が進めている教育施策の周知を図り、地域に根差した教育行政を推進する	①教育委員会会議の日程や議事等をホームページで公表する。また、市広報を利用し教育委員会関連の事業や委員の活動を紹介する。 ②教育委員会だよりを発行し教育部各課の諸事業の周知を図る。 ③GIGAスクールに関するお知らせ「ICTだより」をデータ版で発行し、ホームページ、各学校等に配布する。

3 担当課評価

成果・達成状況・改善の方策等 ○達成した ●達成できなかった
○定例会12回に加え、臨時会を1回開催。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」等に基づき会議の運営を行った。 ○事前協議の時間を30分から1時間に延長し、会議の円滑化、活性化を図るとともに、教育委員会の課題について担当者からの説明や現場を確認する等、現場の知識を深めた。 ○関係例規の制定や改正について慎重審議し、整備と公布を行った。 ・議案等審査30件(R2年度22件)
○コロナの状況を考慮しながら学校訪問、自然学校を訪問し指導助言や意見交換を行うことができた。また、完成した市民交流広場を視察し必要な規則改正等を行った。 ・学校訪問4校(昨年度1校) ・自然学校1日(昨年度1日) ・校長面談6日(昨年度4日) ・各校園入学式、運動会自粛(昨年度自粛) ・各校園卒業式1名ずつ(昨年度1名ずつ) ●5月に総合教育会議が開催され、コロナ禍における学校現場の状況や令和3年度事業について意見交換等を行った。昨年度3回開催と比較し1回のみ開催となった。
○教育委員会の開催状況や議事内容をホームページに公開、また広報にも関連記事を掲載する等情報提供を行った。 ●教育委員会だよりの発行が1回となった。 ○ICTだよりを9号発行し、学校におけるICT活動について学校間に情報提供することができた。

課名
教育総務課

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 内部評価

自己点検・評価委員会による評価	達成状況
教育委員会の会議運営については、議事運営が改善されたことにより円滑に会議を実施することができた。また、事前協議や現場確認を行うことで知識を深め、活発な意見交換を行った。	A
感染症対策を講じながら実施された、学校園、教育施設の訪問や各種行事に出席した。また、研修会等にも積極的に参加し、教育を取り巻く最新の状況について研鑽を深めた。 総合教育会議においては、市として取り組むべき教育施策等について、首長との意見交換の場であることを活用し、より積極的に提言を行っていく必要がある。	B
新型コロナウイルス感染症対策に係る登校停止の際に、教育委員会としても保護者に積極的に情報を発信する必要があった。教育委員会広報の発行については、市の広報にも教育に関する情報が掲載されているため掲載事項を精選し、また発行する時期によってその意義も変わってくるため、時期を明確に定めて発行する必要がある。	C

5 外部評価

外部評価委員会による評価	達成状況
事前協議を30分から1時間に延長する等の工夫により、スムーズな会議運営が行われている。事前協議では議案の研修だけでなく現場視察等も実施され、会議の充実や活発な意見交換が図られている。	A
コロナ禍の中で活動が制限されていたものの、学校園や教育施設の訪問、各種行事や研修会には積極的に参加され、現場や教育を取り巻く状況の把握に努めておられる様子がうかがえる。	B
コロナ禍での登校停止等の対応については、学校からだけでなく教育委員会からも速やかに保護者への情報提供を行っていた。教育委員会広報の発行については、昨年も課題として挙がっていたが、市の広報等でも情報発信は行われているため、市民の求める情報を見極め、適切な時期に発行していただきたい。	C

令和3年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	子どもたちの学びを支える環境の充実
-------	-------------------

課名
教育総務課

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった
 D目標が達成できなかった)

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1	学校施設における必要な維持修繕を行い、適切な教育環境の提供に努める。 ①学校の安全管理を徹底し事故の未然防止、緊急対応の体制を図る。 ②広谷小学校屋内運動場屋根改修工事の実施 ③大屋小学校普通教室間仕切り設置工事
2	ICTを活用した新しい教育への取組、豊かな学びを支援する。 ①学校内のネットワーク環境を充実なものにし、スムーズでストレスのない学習環境を整備する。 ②アフターコロナ社会を見据えて、タブレットを活用した新しい教育への取組を支援する。 ③ICTの普及に伴うスマートフォンやSNSなどのトラブル防止に向け、セキュリティ対策や情報モラル研修を実施する。
3	大学生への奨学金支援を行い将来の養父市を担う若者の人材育成を図る。 ①募集スケジュールを見直したためさらなる周知を図る。 ②ニーズを把握し制度の是非に向け検討していく。

3 担当課評価
成果・達成状況・改善の方策等
○達成した ●達成できなかった
○緊急に対応すべき工事が多く、予定していた修繕工事等が遅れがちにはなったが学校と連携し年度内に実施することができた。 ○広谷小学校屋内運動場屋根改修工事はできるだけ早く着工するため、設計を2年度末、4月に契約、夏休みまでに完成することができた。 ●大屋小学校教室間仕切り設置工事は設計、工事の遅れを修正できず、夏休み中に完成させるため工程を調整する必要があった。
○インターネットの遅延問題は集中して対策を行い、授業に支障なく使えるようにはなった。ケースによっては不安定な時間帯があるため引き続き対応していく。 ○タブレットの活用に向けた研修会や教材の提供など新しい学びへのサポートを行った。各学校でICTを活用した授業や休業時のオンライン活用など積極的に行われるようになった。 ○情報セキュリティのルールを策定し、児童生徒、教職員、家庭への啓発を行った。引き続きSNSのトラブルや怖さを伝え正しい理解を進める。
●応募者の減少に対する検証や制度の見直しを十分に行うことができず、目標人数に至らなかった。 ・応募人数4名(昨年度3名) ○制度を理解し将来養父市で活躍することを目標としている4名に支援を実施することができた。 ○奨学生や保護者に対し、アンケートを行い制度の必要性について今後見極めていく。

4 内部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況
学校施設の維持修繕については、施設の老朽化等もあり、緊急的な修繕が多くなってきているが、安全で快適な教育環境を提供するため適切に対応している。工事の遅れ等も見られたが、必要な修繕については年度内に実施することができている。	B
ICTを活用した新しい教育のための環境整備については、遅れることなく進められている。研修会の開催や教材の提供等、タブレット等を活用した先進的な取組を実施するため、教職員への更なる支援が必要である。情報セキュリティについては、家庭への発信を一元的に実施する等、発信方法について工夫が必要である。	A
現在の応募要件とニーズを勘案した結果、コロナ禍における他の支援制度との兼ね合いもあり、応募者は減少傾向にある。養父市に帰ってくるための受け皿についてのビジョンも持ちながら、大学生等にとって魅力ある制度となるよう更なる検討が必要である。	B

5 外部評価	
外部評価委員会による評価	達成状況
学校施設の維持修繕については施設の安全のため適切に行われている。今後老朽化が更に進むことを想定し、計画的に、適切な維持管理を心がけていただくよう一層の努力をお願いしたい。	B
ICTを活用した教育の取組については、授業でも支障なく使用できるようインターネット環境等も整えられ、また教職員の研修も進み、時代のニーズに沿った形で進められている。情報モラルについては、正しい知識を得られるよう、年齢に応じた指導を重ねていただきたい。	A
卒業後の養父市への定住が条件の制度であり、この制度の活用を希望する家庭もあると思うが応募者は減少傾向にあり、大学等に進学する時点でUターンや将来の展望について決定することの難しさも感じられる。ニーズについてや制度の継続についても検討が必要である。	B

令和3年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	1 発達や学びの連続性を踏まえた乳幼児教育の充実を図る
-------	-----------------------------

2 評価項目(目標設定)

評価項目(目標)	取組内容
1	子ども自身の主体性を養い、子ども一人一人への深い理解と特性や発達段階に応じた指導を工夫するとともに、発達に必要な環境の充実に努める。 ①幼児理解に基づく、指導計画・環境構成・活動の展開等について、実践・振り返り・改善を図る。 ②インクルーシブ保育について外部より講師を招き研修会を開催する。 ③個別の支援計画を立て、一人一人の発達を促す。 ④小学校と連携し、円滑な接続を図る。
2	保育士・保育教諭の指導力・資質・能力を高めるとともに、教育・保育課程の充実に努める。 ①園内外の研修会等に積極的に参加し、専門技術を学び、保育に活かす。 ・令和3年度研修テーマ「一人一人を大切に保育」～みんなちがって みんないい～ ・歳児別研修会 各歳児1回 ・公開保育 11回実施 ・主任保育教諭研修に参加 ・保育教諭研修に参加 ・実技研修(大屋こども園) ・各園での園内研修の実施 ・新任職員等研修に参加
3	特別な支援が必要な子どもについて、関係機関と連携を図るなど組織で対応するとともに、個別の指導計画に基づき、個に応じた適切な支援を行う。 ①巡回相談・5歳児発達相談の実施 ②継続した支援が必要な児に対しサポートファイルの早期作成 ③健康課との定例ミーティングを開催

3 担当課評価

<p>成果・達成状況・改善の方策等</p> <p>○達成した ●達成できなかった</p>
<p>○関係機関と連携をとり、研修や巡回相談等で、知識、技術を身につけるとともに、子どもへの理解を深め、子どもたちが主体的に活動できるような環境を整えるなど教育・保育内容の工夫、改善を図った。 ○リモートによる研修を実施し、多くの職員が一度に同じ研修を受けることで、意識共有が図られ研修内容を教育・保育に活かすことができた。 ○個別の支援計画を立て、教育・保育を進めたことで、一人一人の成長につなげることが出来た。 ●コロナ禍で、小学校との交流は最小限のものとなった。今後は5歳児はもとより、園所として、小学校とのつながりを深めていく必要がある。</p>
<p>○市内全てのこども園・保育所が同じテーマに沿って研修し、公開保育をすることで、各園所内での研修も深まり、保育士・保育教諭の能力向上につながった。得た知識や技術を保育の中に活かし、教育・保育の充実を図ることができた。今後も研修計画をしっかりと立て研修することで、保育士・保育教諭の資質の向上を図っていく。(当初計画した研修会はすべて実施) ○コロナ禍により、多くの研修がリモートになったことで、職員が参加しやすい面もあった。今後も、リモートによる研修など、職員が参加しやすい研修を実施することで職員の指導力・資質・能力の向上に努める。</p>
<p>○巡回相談・5歳児発達相談により、保育者や保護者と連携し、個に応じた適切な支援につながった。巡回相談実施回数50回(前年度44回) ○保護者や保育士と連携し、継続した支援が必要な子どものサポートファイル作成について積極的に促し、個に応じた適切な支援につなげることが出来た。サポートファイル新規作成件数15件(前年度19件) ○健康課と毎月1回の定例ミーティング及び1月に事例検討会を実施し、妊娠期からの情報を共有することができ、継続した支援・関わりにつながっている。</p>

課名
こども育成課

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
(A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 内部評価

自己点検・評価委員会による評価	達成状況
関係機関と連携をとりながら、研修や巡回相談等を通して子ども一人一人の特性や発達段階について理解し、個々の課題に応じて関わる事ができた。また、必要な子どもに対しては個別の支援計画を立て、成長を促すための取組を実施している。コロナ禍の中での小学校等との交流については工夫しながら実施する必要がある。	B
新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、市内全てのこども園・保育所が同じテーマを持って各種研修会を計画的に、またリモートで行う等工夫して実施することができた。研修会に積極的に参加することで、保育士・保育教諭の資質・能力の向上に努め、研究発表や意見交換により共通理解を図っている。	A
巡回相談や5歳児発達相談、サポートファイルの早期作成等、個々に応じた適切な支援を実施している。サポートファイル未作成の子どもについても情報共有を図るとともに、サポートファイル作成のメリット等についての保護者の理解が得られるよう、取組を進める必要がある。	A

5 外部評価

外部評価委員会による評価	達成状況
研修時間を確保しながら様々な取組がなされ、子どもを安心して育てられる環境づくりが進められている。小学校への円滑な接続については、コロナ禍で活動が制限される中ではあるが、制限されることで小学校へ行きにくくなること等がないよう、方法や内容を工夫してしっかりと連携していただきたい。	B
保育を行いながらも計画的に研修を行い、多くの職員が同じ形の研修を受けられるよう工夫して実施している。リモートによる研修等、参加しやすい環境を整え、全ての常勤職員が研修に参加し、指導力・資質・能力の向上に努めている。	A
支援を必要とする子どもについては、巡回相談や5歳児発達相談等、保育者や保護者との相談体制を充実させており、適切な支援を提供している様子がうかがえる。今後も関係機関との連携を密にしながら取り組んでいただきたい。	A

令和3年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	2 多様な遊び・体験を通して自立と共同の態度を培う。
-------	----------------------------

2 評価項目(目標設定)

評価項目(目標)	取組内容
1	<p>協同する経験(幼児同士が共通の目的を持ち、工夫したり協力したりする経験)を通して、人とかかわる力や伝え合う力の育成を図る。</p> <p>①子どもたちの願いや考えを受けとめ、子ども同士が共通の目的を持ち、工夫したり協力したりする活動を展開していく。 ②様々なふれあいの中で、基本的な生活習慣や態度を身につけ、人とかかわる力が身につくようにする。 ③自分なりの言葉や様々な方法で表現したり、話を聞いたりすることを通して、伝え合う楽しさを味わえるようにする。</p>
2	<p>園児が自分の力で、いろいろな活動に取り組む経験を積み重ねることができるよう、信頼関係を築き、安心できる環境を作る。</p> <p>①保護者との信頼関係を築き、家庭との良好な関係のもと、保育を行う。(保護者対応についての研修会を開催予定) ②発達過程に見通しをもち、衛生的で安全な環境の中で、一人一人が意欲的に過ごせるようにする。</p>
3	<p>運動遊びプログラムに基づく体力づくりや園外保育、食育を通し、健康でたくましい心や体を育てる。</p> <p>①公・私立園の3歳以上を対象に運動遊びプログラムの巡回訪問指導を実施する。予定回数:108回 ②管理栄養士による「食育だより」を毎月発行し情報発信を行う。 ③食物アレルギー・体調不良など心身の状態に応じて、適切に対応する。</p>

3 担当課評価

<p>成果・達成状況・改善の方策等</p> <p>○達成した ●達成できなかった</p>
<p>○様々な経験を通して、人とかかわる力や自分から発信する力が身につくよう、子どもたちの様子をよく観察し、個々の子ども・各クラスに応じた計画を立て教育・保育活動を行うことが出来た。 ○家庭と連携をとりながら、普段の園生活の中で、基本的な生活習慣や態度が身につくよう工夫した教育・保育を行った。 ○保育士・保育教諭が、子どもの年齢に応じ、子どもたちの発信(喜怒哀楽の表情、身振り、言葉など)を的確にとらえ、返すことで、発信すること・伝え合うことの楽しさを味わわせることができ、子ども同士でのやり取りにもつなげることができた。</p> <p>○お便り・参観日・個別懇談などを通じ、園での様子を伝え、保護者との良い関係づくりを心がけたことで、子どもたちの活動を家庭からも支援していただくことができた。また、11月5日に歳児別研修(0-1歳)として保護者対応の研修会を実施し、保護者との関わり方について学んだ。 ○園所内が安全・安心に活動できる場となるよう、年齢に応じた環境づくりを行った。 ●コロナ禍で、以前のような行事の持ち方ができず、保護者や地域の方に広く園所での様子を知っていただく機会が少なくなった。コロナ禍での園所での様子を伝える工夫を考えていく必要がある。</p> <p>○各園所において、運動遊びを継続実施し、健康な体作りにつなげることが出来ている。 ●コロナ禍の影響で巡回訪問指導を予定通り実施出来なかった。実施回数56回(前年度回数80回) ○管理栄養士による「食育だより」を毎月発行することで、保育者及び保護者に対し、食育・栄養管理・衛生管理について情報発信を行うことが出来た。 ○アレルギー対応マニュアルを見直し、市内の各園所で統一した適切な対応をとる体制を整えた。 ○保護者との連絡を密にすることで、子どもたちの心身の状態を把握するように努め、異常がある場合は、適切に対応することが出来た。</p>

課名
こども育成課

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況

(A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 内部評価

自己点検・評価委員会による評価	達成状況
多様な体験活動や協同の遊びを通して、人とかかわる力や発信する力が育まれるような保育活動を展開している。また、家庭との連携を密にしながら、基本的な生活習慣や態度の育成にも取り組んでいる。	A
コロナ禍の中で以前のように実施できなかった事業もあるが、それぞれの園で工夫しながら園での様子を保護者に伝えるための取組等を積極的に実施し、保護者との信頼関係を構築しながら保育を実施することができた。	B
指導員による巡回訪問指導や、各園でも日常的に運動遊びプログラムを実施し、子どもたちの体力づくりに努めている。食育については園での活動だけでなく、各家庭とも連携しながら積極的に取り組む必要がある。	B

5 外部評価

外部評価委員会による評価	達成状況
コロナ禍のマスク生活の中での弊害はあると思われるが、保育者が子どもからの発信を的確にとらえ、関係性を構築して保育にあたっている様子がうかがえる。家庭とも連携しながら保育活動を行っている。	A
コロナ禍で機会が減ってはいるが、保育参観等を感染症対策をとりながら工夫して実施し、保護者と保育者が良好な信頼関係を築けるよう積極的に取り組んでいる。	B
こども園・保育所に対応するための管理栄養士が新たに配置され、市内で統一したアレルギー対応マニュアルの見直しをされる等、食の安全性を確保するための取組が実施されている。子どもたちのよりよい食習慣を育てるため、保護者にも積極的に正しい食育についての情報発信を行っていただきたい。	B

令和3年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	3 子どもを安心して育てられる環境づくりを進める
-------	--------------------------

2 評価項目(目標設定)

評価項目(目標)	取組内容
1 子育て世帯の経済的・精神的負担を軽減するため、子育て支援施策を充実・拡大する。	①保育料の無償化の実施 国の無償化の対象とならない0～2歳児の保育料を無償化 ②子育て応援給付金の支給 満2歳の誕生日までの在宅で育児している保護者に対し給付金を支給 ③学童クラブでの昼食配送の実施 夏季休業期間中に学童クラブに通所している児童の希望者に対し、弁当の配送
2 教育・保育施設の適正な管理に努め、安心して安全な施設環境を整備する。	①新型コロナウイルス対策の徹底 ・施設内の消毒・換気等 ・園児・児童・職員の体調管理(検温の徹底) ・できる限りの密の回避 ・行事の取り組みの工夫 ②伊佐学童クラブの移転 老朽化している施設にて開設している伊佐学童クラブを伊佐小学校内の教室を改修して移転
3 虐待の早期発見と予防に努め、子育てに困り感のある家庭への相談・支援に努める。	①家庭児童相談員による要支援家庭への訪問 ②そだれん講座の開催 開催予定 4回 ③要保護児童対策地域協議会の設置 代表者会議 2回 実務者会議 4回 個別支援会議 随時 ④ほかほか相談ルームの開催 年8回予定

3 担当課評価

成果・達成状況・改善の方策等 ○達成した ●達成できなかった
○令和3年4月から0～2歳までの保育料を無償化し、子育て世帯の経済的負担軽減に資することが出来た。対象者211人 影響額 29,896千円 ○令和3年4月から在宅で育児をしている保護者に1歳までの子ども1人につき月10,000円、2歳までの子ども1人につき月5,000円の給付金を支給し、多様な子育てに対し支援を行った。対象者274人 支給額 16,870千円 ○夏季休業期間中の昼食提供を予定通り実施し、子育て世帯の負担軽減に資することができた。提供数 1,340食
○子ども園・保育所・学童クラブにおいて、施設内の消毒・換気などの感染症対策を徹底して行った結果、各施設内で数名の感染症患者は確認されたものの、クラスターなど感染拡大を招くことはなかった。 ●感染対策をする中で、行事等が実施できなかったものも多かった。子どもたちの成長や保護者・地域との関係を築くために各種行事等は重要であり、実施方法について検討していく必要がある。 ○予定通り夏季休業期間中に施設改修を行い、伊佐小学校内に伊佐学童クラブを移転し、安心して安全な場所で施設運営が行えるようになった。
○支援が必要な家庭に対し家庭児童相談員による訪問・相談支援を行った。相談件数227回(前年度310回) ○そだれん講座を開催し、子育てスキルの向上を図ることが出来た。開催回数4回(前年度4回) ●代表者会議・実務者会議は、コロナ禍の影響により、予定していた回数の開催が出来なかった。代表者会議0回(前年度1回)、実務者会議3回(前年度3回) 個別支援会議8回(前年度15回) ●新たに取組んだほかほか相談ルームは、予定通り年8回開催したが、参加者が1人の時もあり、来年度は周知方法や時期などの見直しを図り、参加者増に向けて取り組む。

評価者の別

課名	評価
こども育成課	○ 担当課評価
	○ 内部評価
	○ 外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 内部評価

自己点検・評価委員会による評価	達成状況
保育料の無償化の拡充や、子育て応援給付金の支給等、市独自の子育て世帯への経済的・精神的負担軽減のための多様な支援施策を実施している。また、こども園等を利用していない世帯に対する支援についても充実している。	A
教育・保育施設の安心で安全な施設環境を維持・整備するため、感染症対策や施設の整備等に取り組んでいる。学童クラブの施設の老朽化による移転についてもスムーズに実施することができ、安心安全な環境を整備した。	B
家庭児童相談員による要支援家庭への必要な相談・支援等について積極的に行っている。新たな取組であるほかほか相談ルームについては、情報発信等の方法を工夫し、必要な方が参加できるよう参加しやすい体制づくりを進める必要がある。	B

5 外部評価

外部評価委員会による評価	達成状況
子育て世帯への支援として、保育料の無償化や子育て応援給付金の支給、夏季休業中の学童への昼食提供事業等、充実した支援を実施している。「子育てしやすいまち」として、定住のための宅地等の確保も視野に入れ、関係機関と連携した取組についても進めたい。	A
安心で安全な教育・保育環境のため、感染症対策の徹底や施設の移転等を実施している。特に感染症対策については、保育の性質上困難な部分もあると思うが、クラスター等の発生もなく、十分な対策がとられている様子がうかがえる。今後も継続した対策をしていただきたい。	B
支援を必要とする家庭に対し、訪問や相談支援等を実施している。また、そだれん講座や相談ルームの開催等、保護者への働きかけにも取り組んでいる。支援を必要とされる方が相談したり参加したりしやすい体制を更に整えていただきたい。	B

令和3年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	1 「生きる力」を育む教育を推進する
-------	--------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1 魅力と活力ある学校づくりの推進	①小中一貫教育、義務教育学校の取り組みの推進 ②小規模特認校の取り組みの推進 ③ICT教育を活用した教育の推進
2 地域とともにある学校づくりの推進	①コミュニティ・スクールの取り組みの推進 ②部活動のあり方の検討 ③兵庫型「体験教育」、ふるさと教育、キャリア教育の充実
3 児童生徒一人一人に応じた教育と支援の充実	①特別支援教育の充実 ②「土曜学習教室」の開設等による子どもの学びの場の充実

3 担当課評価

成果・達成状況・改善の方策等 ○達成した ●達成できなかった
○中学校区ごとの取組が軌道に乗っており、めざす子ども像を共有し、計画的に取り組んだ。 ●小中一貫に係る中学校区同士の横の連携が希薄化している。 ○小中合同の教科研修は継続して実施した。 ○義務教育学校では、合同職員室が設置されたことをいかし、連携した教育活動を展開した。 ・特認校制度活用者は新たに3名増えた。2名の転出があり、現在13名である。 ○英語や演劇等特色ある教育活動を実施した。 ○1人1台タブレット端末を活用した学習に積極的に取り組んだ。 ●学校によって取組状況に差がある。
○学校運営協議会により地域の声を学校運営に生かすことができた。小学校では、地域学校協働活動が積極的に展開された。 ●コロナ禍により、地域との連携に制約を受けた。 ○部活動あり方検討会を2回開催し、部活動の地域移行について方向性を示した。 ○3名の部活動指導員をモデル配置し、その成果と課題を検証した。 ○コロナ禍であったが、トライやる・ウィーク、自然学校等内容を工夫して実施した。 ○山の学校(氷ノ山登山)はすべての学校で実施することができた。
○特別支援学級や通級指導教室等、きめ細かな指導・支援に努めた。 ○11名の指導補助員を配置し、要支援児童生徒の支援を行った。要支援児童生徒が増えているため、指導補助員の増員を図る。 ○土曜学習教室を17回実施した。コロナ対策により18回の予定が1回減った。 ●35人の登録があったが、コロナ禍等により、登録人数の3分の1程度の参加の回もあった。 ○中学3年生を対象に加えるなど改善を図った。

課名
学校教育課

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった
 D目標が達成できなかった)

4 内部評価		5 外部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
中学校区同士の横の連携を密にし、情報交換等を積極的に行うなど、連携にとどまらない、魅力ある小中一貫教育、義務教育学校に向けての取組を進めていく必要がある。 小規模特認校については、制度を活用している児童が13名いることで、複式学級が解消するなど、大きな効果が得られている。 ICT教育の活用について、コロナ禍による学校の臨時休業によって取組が大きく推進している。先進校に学びながら活用を進める等、学校による取組の差を解消する方策が必要である。	B	義務教育学校では、中学校の専門教科の免許を持つ教員が前期課程で授業を行う等、義務教育学校ならではの取組が進められている。 小規模特認校では、英語教育等特色ある取組だけでなく、少人数で学ぶことも魅力の一つとなっており、学校の活性化につながっている。 義務教育学校や小規模特認校のいい部分を他校にも広げ、リードしていきような取組を進めていただきたい。	B
コロナ禍の中で地域との連携については制約があったが、学校ごとに工夫をしながら連携事業に取り組んだ。各種事業の実施については、開催しないのではなく、どのようにすれば開催できるかという考え方に方向転換しており、工夫しながら体験教育等に取り組んでいる。	A	新型コロナウイルス感染症対策を講じながらも事業が行えるようになってきており、withコロナの体制が整ってきている様子がかがえる。 コミュニティ・スクールへの取組や部活動のあり方の検討については、少子化が進む中で様々な課題が出てくると思われるが、学校が主体であることを根底に、指導方針を明確にしながら進めていただきたい。	A
特別支援教育の充実については、個々の教育ニーズに応じた支援を実施している。 土曜学習教室については、新たな事業であり、子どもたちの学びの場を充実させるため、実施方法等にさらなる改善が必要である。	B	特別な支援を必要とする児童生徒一人一人に応じた支援を実施しており、指導補助員を配置する等の配慮を行っている。今後も継続して充実した支援をお願いしたい。 土曜学習教室については、コロナ禍での開催となり参加者が少ない回もあったが、ニーズ等を聞き取っていただき、次へつなげていただきたい。	A

令和3年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	2 子どもたちの学びを支える環境を充実する
-------	-----------------------

2 評価項目 (目標設定)

評価項目 (目標)	取組内容
1 「安心・安全」の確保に向けた環境整備等の推進	①新型コロナウイルス感染症対策を徹底した教育活動の推進 ②「通学路安全プログラム」に基づく通学路の安全確保 ③「学校防災マニュアル」に基づく防災教育の実施 ④情報モラル教育教材(DQ教材等)の実施による情報モラル教育の充実
2 いじめ・不登校等の防止に向けた取組の推進	①いじめ防止基本方針に基づくいじめの未然防止、早期発見、早期対応 ②不登校の未然防止と支援の充実 ③教育相談支援体制の充実
3 子どもたちとふれあう時間の確保と指導の充実	①教職員の働き方改革の推進 ②教職員の資質・能力の向上に向けた研修の充実

3 担当課評価

成果・達成状況・改善の方策等 ○達成した ●達成できなかった
○学校と連携・協力し、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図った。主な学校行事を実施することができた。 ○登校停止となる学校があり、オンライン学習等で対応した。 ○通学路の合同点検を実施し安全確保に努めた。 ●登下校中の事故が発生した。より一層の事故防止に努める。 ○八鹿青溪中では、気象災害に係る防災教育に取り組んだ。 ○情報モラル教材を小5・6、中1に導入し、学習を深めた。SNSルールポスターを新入生に配布し、啓発に努めた。
○いじめ認知件数が小39人、中55人と、昨年度より減少している。 ○いじめ対応マニュアル等に基づきチーム学校で対応した。 ●不登校の人数が小11人、中15人と、昨年度より増加している。 ○子どもサポート室の通所補助制度を新設した。 ○令和4年度、サポート室の開所時間を延長し、相談体制の拡充を図る。 ○スクールソーシャルワーカーを各中学校区に配置したり、スクールアドバイザーを派遣したりするなど、相談体制の充実を図った。
●新型コロナウイルス感染症対策に係る教職員の業務が増加した。 ○すべての学校にスクール・サポート・スタッフを配置し、教職員の業務をサポートした。 ○GIGAスクールサポーターを派遣し、ICTに係る業務をサポートした。 ●学校の業務の一部を地域が担えるよう、コミュニティ・スクールによる地域との連携・協働を推進する。 ●先進校研修や対面での研修が実施できなかった ○対面できない場合は、ICT機器を活用するなど工夫して行った。 ○GIGAスクール構想に係る研修が充実した。

課名
学校教育課

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 内部評価

自己点検・評価委員会による評価	達成状況
新型コロナウイルス感染症については、各学校で徹底した対策を実施しながら学校行事を行うことができた。登校停止によって感染防止対策を講じつつ、オンライン学習によって教育活動を継続することができた。通学路の安全確保については事故の発生もあったが、学校では適切に対応しており、今後も更に事故防止に努めていく。	A
いじめ・不登校等の防止に向けた取組については、学校で積極的認知に取り組み、早期発見・早期対応に努めているが、「100%達成できた」とすることは難しい項目なので、常に最善を目指すという意識を持って今後も推進を図る必要がある。	B
新型コロナウイルス感染症対策に係る教職員の業務の増加はあったものの、スクール・サポート・スタッフの配置により業務の軽減を図った。コミュニティ・スクールの推進による地域との連携も小学校を中心に少しずつ進展してきており、更に連携・協働を進めていく。	B

5 外部評価

外部評価委員会による評価	達成状況
新型コロナウイルス感染症対策による登校停止等があったが、オンライン学習の取組が進展し、感染防止をしながら学びを止めることなく進めることができた。今後はオンライン学習を気象警報時の休校の際にも活用できるようにしていただきたい。事故防止については危険箇所の点検や研修等、学校でできることは適切に実施している。	A
いじめ、不登校についてはサポート室の充実等、様々な対応がなされているが、依然として無くならない社会問題であり、一人一人に合った最善の解決方法を見出すことは難しい問題である。幼少期からの徹底した啓発活動や日常の対応を強化し、未然防止に努めていただきたい。また、スクールソーシャルワーカーの増員等、子どもや保護者が気軽に相談できる体制づくりをより充実させていただきたい。	B
スクール・サポート・スタッフやGIGAスクールサポーター等の人的配置により、コロナ禍での教育活動やGIGAスクール構想に基づくICT業務に係る教職員の負担軽減が効果的に図られている。コミュニティ・スクールによる地域との連携については、学校が主体となって共に子どもを育てるという意識を持って取り組んでいただきたい。	B

令和3年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	1 「生きる力」を育む教育を推進する
-------	--------------------

2 評価項目 (目標設定)

評価項目 (目標)	取組内容
1 学校給食の充実と教育活動全体を通じた食育の推進	<p>①衛生管理を徹底して、安全、安心な学校給食を提供する。</p> <p>②成長期の子どもの健康の保持増進、心身の発達と望ましい食習慣の形成を図るため、学校給食の充実と食に関する指導の充実を図る。</p> <p>1) 栄養教諭(栄養職員)による食育指導 2) 学校給食を活用した意識啓発・やっぷメニュー、かむかむ給食、食育の日、はばたん給食(ふるさと給食)の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食だより、献立表の配布 ・食育体験(食材の皮むき等) ・夏休みクッキング教室 ・こども園への出前講座 ・子どもが作る弁当日の支援 ・学校での試食会の開催 ・給食センターの見学・試食会の開催 <p>③食物アレルギー対応の実施 ④但農給食の取組</p>
2 学校給食センターの適正な管理・運営	<p>①施設・設備の維持管理と運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デマンドによる管理で適正な電気使用量に努める。 ・定期点検や必要な修繕を行い、各種設備機器の維持管理に努める。 <p>②衛生管理を徹底し、食中毒予防や異物混入防止を図る。</p> <p>③職場の労働安全の確保 ④食材の調達と地産地消の推進を図る。</p>

3 担当課評価

成果・達成状況・改善の方策等
<p>○達成した ●達成できなかった</p>
<p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で全校休校により給食提供日の変更が続く時期があったが衛生管理を徹底し給食を提供した。</p> <p>○多くの食材を使用した手作り給食を提供し、学校給食の充実にも努めた。旬の地場産物や特産物の使用は、食材への関心と生産者への感謝の心を育み、残食量の減少や食育推進につながっている。</p> <p>○栄養教諭による給食指導や食育指導は学校と連携して実施できた。</p> <p>○情報課と共同制作している調理番組「おうちでつくろう学校給食」を10回収録し放送した。</p> <p>○医師の指示のもと保護者や学校と連携し事前確認を徹底し食物アレルギー対応を適切に行った。</p> <p>○栄養や望ましい食習慣等、食育について児童生徒、保護者等に情報提供を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立表・給食だよりの発行11回 (R2年11回) ・ひとくちおたよりの発行 (給食提供日毎日) ・食育指導(授業時間)150時間 (R2年82時間) ・給食指導(給食時間)175回 (R2年119回) ・食育体験7小学校 (R2年1小学校) ・給食センター見学2回 (R2年1回) ・こども園出前講座9回 (R2年9回) <p>○第7回養父市学校給食コンテスト及び但農給食の取組を継続し、実施した。</p>
<p>○各種設備機器の日常点検と定期点検を実施し、必要な部品交換を行った。計画していた厨房排気脱臭機の部品交換を実施した。</p> <p>○食中毒予防や異物混入防止に努めるとともに、ヒヤリハット事例を全職員で確認し、事故予防に努めた。</p> <p>○H31年4月に認定を受けた食品衛生管理プログラム(兵庫県版HACCP)の3年毎の更新申請を行い、衛生管理の徹底に努めた。</p> <p>○学校給食用食材の納入業者登録を基に、食材調達を適切に行うように努めた。</p>

課名
学校給食センター

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況

(A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 内部評価		5 外部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
<p>コロナ禍の中であったが、栄養教諭による食育指導ややっぷ給食等の学校給食を活用した意識啓発、但農給食の取組等、多くの取組を実施することができた。地場産物や特産物等の多彩な食材を利用した給食を提供し、学校給食の充実にも努めている。また、ケーブルテレビを活用した積極的な情報発信も実施している。今後も学校等と連携しながら食育推進を図っていく必要がある。</p>	B	<p>新型コロナウイルス感染症対策による学校の休校により、給食提供日の変更される等の急な計画の変更にも対応しながら、安全・安心な給食づくりが行われている。地産地消を意識した多彩な食材を使用して豊富なメニューが展開されており、充実している様子がうかがえる。ケーブルテレビを活用した調理番組の放送により、地域にも給食の情報が発信されることで地域の食育にもつながっている。</p>	A
<p>施設の維持管理については経年劣化が進み、修繕・交換等も増えているが定期的に点検等を行い、適正に行っている。今後も衛生管理を徹底し、必要な部品交換や修繕を行い施設の維持管理に努める。また、安全運転による交通事故防止やセンター内での労災事故防止を徹底する必要がある。</p>	B	<p>食中毒予防や異物混入防止に加え、コロナ禍の中で感染症対策も講じながら徹底した衛生管理が行われている。万が一の事故のないよう、今後も一層の衛生管理、安全管理の徹底をお願いしたい。</p>	B

令和3年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	1 市民の学習ニーズに応える社会教育を進める
-------	------------------------

課名
社会教育課

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった
 D目標が達成できなかった)

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1	記念館等を適正に管理することで、市民への学習の場を提供する。 ①直営施設の管理 大庄屋記念館はシルバー人材センターへの委託、青谿書院記念館は、宿南地区自治協議会への委託及び周辺環境整備を実施。 ②指定管理施設 山田風太郎記念館は指定管理の継続、令和3年度で指定管理期間満了となる上垣守国養記念館及び大屋かいこの里は、次期指定管理者の選定を行う。 ③各種事業の実施による利用者増及び先人を学ぶ取組の実施。
2	市民の社会体育や文化活動を支援するため、市内全校において学校体育施設開放事業を実施する。 ①新型コロナウイルス対策を徹底し、学校との連携により、市民ニーズに対応した学校体育施設開放(グラウンド、体育館等)事業を実施することで、社会体育や文化等の継続的な活動を支援する。
3	

3 担当課評価
成果・達成状況・改善の方策等 ○達成した ●達成できなかった
○新型コロナウイルスによる休館等で、利用者数は減少しているが、施設管理については適正に実施した。青谿書院では、敷地内の危険建物を撤去し、環境改善を行った。 ○指定管理施設が適正に運営されるよう、毎月のモニタリングや運営協議会を3回開催し、各種課題等についての共通認識を図った。 ●新型コロナの影響により、利用者増に繋がる取組は実施出来ていない。 ●新型コロナにより、利用停止の期間があったが、それ以外については、感染対策を徹底した上で活動を支援した。

4 内部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況
記念館等の管理運営については、毎月のモニタリングや定期的な運営協議会の開催により、適正に実施している。また、施設周辺の整備についても、老朽した建物の撤去等を行うなど、環境の改善にも努めている。	A
新型コロナウイルス感染症対策で利用を停止した期間があり、利用期間は短くなったが、そのことで感染拡大防止につながった。利用を再開してからは機器の消毒等、感染対策を徹底して実施した。	評価なし

5 外部評価	
外部評価委員会による評価	達成状況
新型コロナウイルス感染症対策による休館等はあったものの、施設管理については適正に行われており、施設周辺の環境改善も実施されている。コロナ禍の中での利用者増の取組は困難であったことがうかがえる。	A
新型コロナウイルス感染症対策による利用停止期間はあったが、それ以外の期間は感染対策を徹底して学校開放を実施している。	評価なし

令和3年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	2 ころ豊かな青少年の育成を進める
-------	-------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1	<p>学校・家庭・地域が連携した子どもの安全な居場所づくりの実施。</p> <p>①市内全小学校及び義務教育学校前期課程において、地域ボランティアや社会福祉協議会、公民館、学童クラブなどと連携した「放課後子ども教室」を実施する。</p>
2	<p>PTA及び子ども会育成連絡協議会の活動を支援することで、子ども同士や親子、保護者、学校や地域との交流を図る。</p> <p>①養父市PTCA地域フォーラムの開催及び各校PTAによる環境改善等の各種要望を取りまとめ、市へ提出するとともに市と共にその対応を進める。 ②子ども会主催によるドッジボール大会の開催及び新たな事業に取り組むことで各校間の交流の機会を創出する。</p>
3	<p>養父市成人式の開催。</p> <p>①新型コロナの影響で延期となった「令和3年成人式」を、コロナ対策の徹底及び内容精査を行い、今年度に開催する。 ②今年度の「令和4年成人式」が適正に実施出来るよう、「令和3年成人式」同様に、コロナ対策等を講じた上で実施する。</p>

3 担当課評価

<p>成果・達成状況・改善の方策等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○達成した ●達成できなかった
<p>○放課後子ども教室は、新型コロナによる学校休業以外は予定通りに実施した。不定期開催であった八鹿小学校では、学童クラブを学校で実施することになったことに伴い、他校同様に定期的な開催として取り組めた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナのため、従来のようにホールでの開催は中止した。 ○新たな取り組みとして、PTA活動の実践発表を、ユーチューブやケーブルテレビで配信することで、広く市民へも伝えることが出来た。 ●新型コロナのためドッジボール大会は中止した。 ○新たな視点から、絵画や書道などの展示を行うことで文化的な活動にも取り組んだ。
<p>○10月30日(土)に、やぶ市民交流広場・ホールで開催し、新成人233人中127人(54.5%)が参加した。事前に配付した検査キットの結果確認や検温、消毒などの徹底、内容の縮小や参加者の制限を行った。 ○上記同様の対策を講じた上で、1月9日(日)に、やぶ市民交流広場・ホールで開催し、新成人234人中183人(78.2%)が参加した。 ○「令和3年成人式」「令和4年成人式」とともに、従来のケーブルテレビでの生放送に加え、視聴出来ない市外の人のため、新たにユーチューブによる生配信を行った。</p>

課名
社会教育課

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった
 D目標が達成できなかった)

4 内部評価		5 外部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
放課後子ども教室については、新型コロナウィルス感染症対策による学校休業の影響は受けたものの、八鹿小学校でも定期開催が実現する等、新たな取組もあり、子どもの居場所づくりや体験活動の場を積極的に提供している。	A	放課後子ども教室については、市内全小学校及び義務教育学校前期課程で、関係機関と連携しながら実施しており、子どもの安全な居場所を提供することができている。	A
新型コロナウィルス感染症対策により、縮小、中止した行事もあったが、代替となる新たな事業に取り組み、コロナ禍の中でも工夫しながら積極的に事業を実施した。	B	養父市PTCA地域フォーラムのホールでの開催は中止となったが、ユーチューブやケーブルテレビでの配信は、市民へ向けた情報発信の良い機会となった。今後も継続して配信にも取り組んでいただきたい。子ども会主催のドッジボール大会は中止となったが、養父中学校区では6年生の交流のためのレクリエーション大会を自主的に実施する等、コロナ禍を機に新たな交流の機会が創出されている。	B
新型コロナウィルス感染症の影響で延期となった令和3年成人式を含めた2回の成人式の準備を並行して行い、事前の検査や検温等の感染症対策を徹底する中で式典を滞りなく実施することができた。 ケーブルテレビでの生放送だけでなく、ユーチューブによる配信を行い、色々な方に広く情報を発信することができた。	A	新型コロナウィルス感染症対策のため延期となっていた令和3年成人式と令和4年成人式を、徹底した感染症対策と日程調整等を行い、クラスター等を発生させることなく開催している。	A

令和3年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	3 ふるさとの文化財を継承し、その保存と活用を進める
-------	----------------------------

課名	社会教育課
----	-------

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった
 D目標が達成できなかった)

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1	国や県の補助事業等を活用した文化財整備事業の実施及び各種歴史公園の適正管理、文化財等の活用に向けた情報発信。 ①八木城跡殿屋敷地区及び大杉重要伝統的建造物群における計画的な整備の実施。 ②市が管理する歴史公園の適正な維持管理の実施。 ③現地見学会の開催やホームページ等による文化財の発信、日本遺産推進協議会等と連携した各種PR事業の実施など。
2	個人所有の文化財や伝統文化保存団体及び文化財保護団体等の支援。 ①名草神社保存修理事業におけるコーディネーターとしての全面的な支援。 ②市内各種文化財保存団体等に対する活動支援。
3	

3 担当課評価
成果・達成状況・改善の方策等
○達成した ●達成できなかった ○積雪による影響で、当初計画より遅れが生じたが、年度内に全ての工事が完了した。 ○定期的に現地確認を行い、必要に応じて維持管理作業を実施した。 ●ホームページや広報による発信、日本遺産のPR事業は実施したが、新型コロナにより、積極的な取組は出来ていない。 ○計画通りに本殿、拝殿の工事は完了した。新たに追加となった防災工事についても、国との連携を図って支援した。 ○通常の活動支援に加え、県の機関による補助制度を活用して、新たな団体への支援を行った。

4 内部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況
文化財整備事業については、八木城跡殿屋敷地区の整備等、国や県の補助事業を活用して積極的に行われている。ホームページや広報による文化財の情報発信は実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、インバウンドにつながる取組は出来なかった。	B
名草神社の保存修理については、国との連携を図りながら計画どおりに工事を完了することができた。県の機関による補助制度を新たに利用する等、活用できる制度についても情報収集を行い、支援の内容を充実させている。	A

5 外部評価	
外部評価委員会による評価	達成状況
文化財整備事業については計画的に整備が進められており、歴史公園の適正な維持管理も実施されている。コロナ禍の中で文化財の活用は十分行うことができなかった面もあるが、地域が主体となってイベントを行う等の積極的な取組も見られる。	A
名草神社の7年にわたる本殿・拝殿の工事が計画どおりに完了し、素晴らしい文化財の修理が行われた。このことを歴史・文化の充実感を味わう機会ととらえ、市民が集える場所になるような取組をお願いしたい。市内の文化財保存団体等に対する支援は、地域の力が衰えることで担い手がいなくなり、活動の継続が難しくなる団体もあるため、地域とともに活動を支えていただきたい。	A

令和3年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	1 スポーツ環境づくりとスポーツ活動・健康づくりの推進
-------	-----------------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1	子どもから高齢者まで、全ての世代が参加出来る各種スポーツ事業を開催するとともに、市民がスポーツに関心が持てるよう啓発活動を実施する。 ①各種スポーツ事業の開催 「イヌワシ駅伝大会」や「グラウンド・ゴルフ大会」、「フットサル大会」など ②各種スポーツ教室の開催 指定管理者とも連携し、「陸上教室」や「テニス教室」、「水泳教室」など ③令和4年度に開催されるワールドマスターズゲームズの機運醸成及び各種アスリート事業等による市民への啓発事業の実施。
2	体育協会及びスポーツクラブ21の支援及び連携した各種事業の実施による幅広い体育活動の普及を図る。 ①体育協会に対する活動支援及び各種競技協会と連携した「スポーツフェスティバル」を、年間を通して開催する。 ②市内(旧)18校区全てに設置されているスポーツクラブ21の活動支援及び、共同で実施する「体力測定会」などによって、地域での体育活動の普及や健康増進への意識啓発を図る。
3	市民が気軽に利用出来るよう、体育施設を適正に管理するとともに、体育活動の支援を行う。 ①直営施設の管理 全天候運動場及び養父市都市公園(プール、ジム以外)の維持修繕等の実施。 ②指定管理施設 養父市都市公園(プール、ジムのみ)及びおおやB&G海洋センター等の指定管理の継続。 ③子どもスポーツ安全保険補助金や主要大会等出場時の交通費等補助による支援の実施。

3 担当課評価
成果・達成状況・改善の方策等
○達成した ●達成できなかった
●新型コロナのため、イヌワシ駅伝大会やフットサル大会、グラウンド・ゴルフ大会(団体戦)は中止。グラウンド・ゴルフ大会(個人戦)等は規模縮小で実施した。 ○新型コロナ対策での施設休館による日程変更等はあったが、予定の教室は全て実施(見込み含む)した。 ●ワールドマスターズゲームズで養父市が競技会場になるオリエンテーリングの体験会や、今年度、新しく取り組んだスーパーアスリート事業(トヨタ・女子バスケットボールチーム招へい)は、新型コロナのため規模縮小で実施した。 ●新型コロナにより各団体の活動は縮小しているが、継続して支援を行った。スポーツフェスティバルは、新型コロナの影響で3団体のみが実施した。 ●例年通り、各団体の基金管理や活動支援を行ったが、新型コロナにより、体力測定会は、昨年度同様に実績はゼロとなった。 ○喫緊に必要な修繕等は実施した。 ●施設の長寿命化対策としての現状調査及び長寿命化計画策定は、計画の完了時期よりかなり遅れた。 ○指定管理施設が適正に運営されるよう、毎月のモニタリングや運営協議会を3回開催し、各種課題等についての共通認識を図った。 ○保険補助及び交通費等補助は、運動だけでなく文化活動にも範囲を広げており、周知等を含め適正に対応した。

課名
生涯スポーツセンター

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった
 D目標が達成できなかった)

4 内部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況
各種スポーツ事業の開催については、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画・準備を進めていた多くの事業が中止となった。各種スポーツ教室については日程変更等はあったものの、感染症対策を徹底しながら予定の教室を全て実施することができた。新たにスーパーアスリート事業に取り組み、感染症対策のため広く周知はできなかったものの、プロバスケットボールチームを招へいし、啓発活動を行った。	B
各種団体の支援と連携した事業実施については、新型コロナウイルス感染症の影響で各団体の活動は縮小、体力測定会も中止としているが、継続した支援を実施している。	C
体育施設の管理については、必要な修繕は実施する等、適正に行っている。また、長寿命化計画の策定により、今後も施設の安全性が保たれるよう、適正に管理を実施する必要がある。指定管理施設については、モニタリングや運営協議会を開催して積極的に情報を共有し、課題等の共通認識を図りながら適正な運営に努めている。	B

5 外部評価	
外部評価委員会による評価	達成状況
各種スポーツ事業については、コロナ禍の中で大規模イベントの多くが中止となる中、規模を縮小して工夫しながら実施されたものもあった。スポーツ教室については感染症対策を講じて実施することができており、withコロナでの事業を実施する体制が構築されている様子がうかがえる。	B
体育協会や各種競技協会の活動及び体力測定会は新型コロナウイルス感染症の影響で縮小及び中止となった。体育協会やスポーツクラブ21の活動実績や運営実態を把握し、再編や運営方法の検討についても進めていただきたい。	C
施設の管理運営については、必要に応じた修繕等を実施し、指定管理施設では定期的に運営協議会を開催する等、適正に行われている様子がうかがえる。	B